

## 編集後記

◎年の初めには「おめでとうございます」というのが挨拶の言葉になります。これにはいろいろな意味があつてなる程おめでたいことには違いありませんが、われわれには、新しいこの1年が畜産にとってさらに躍進の年となり、これが農家経営に大きなプラスとなって初めて、この「おめでたい」意味が生きてくるのではないかと思います。畜産関係のすべてがスクラムを組んでよりよい年としたいものです。

◎畜産の将来の見とおしは非常に明るいといわれますが、その過程には、国にも県にも、農家にも、まだまだ困難な問題が多いようです。「岡山畜産便り」の編集にも農家や、畜産技術者、行政関係の間のかけ橋としての責任を感じるわけですが、今年からは、こういったことから、各郡畜連やその他の団体からも積極的に投稿をお願いして、地方の畜産の動向を広く関係者に知っていただき、より親しみやすい内容にして行きたいと考えておりますので、会員の皆様の一層の御支援をお願い致します。

◎今年も新年の畜産展望として、県の事業施策からみた概要を載せることにしました。少し堅すぎたかと思いますが参考として下さい。また半年の年の初めとあつて、牛に因んだ内容ばかりが多くなりましたが、加本氏の「5年の牛の話」など畜産人として知っておいてもよい話題ではないかと思います。同氏の「永井さんに憶う」は、不手ぎわで登載が遅れたことをお詫びいたします。